

PROJECT
HITO 20

地域にヘルスケアでイノベーションを

PROJECT

HITO 20

地域に暮らす全ての人々が、この先も健康に生きていくために。

ヘルスケアの未来をどう設計すべきか。

人口減少や超高齢化など、社会の変化や時代の転換期にある今だからこそ、

私たちは発想を変えて、様々な課題に挑むべきだと考えます。

デジタル技術を有効活用し、地域内外からヒトやビジネスを呼び込み繋がることで、

安心して生き生きと暮らせる、新しい四国中央市を目指します。

PROJECT
HITO 20

from Cure to Care

—— 病院 から 在宅 へ ——

人生100年時代。「病気になってから治療する」という現在の治療方針から

「病気にならないよう健康を維持する」予防医療へのパラダイムシフトを実現します。

その未来に向けて、ライフスタイルを見直し、地域医療の充実、介護・福祉サービスの向上を図るためには

新たなテクノロジーの活用と人材育成、多岐にわたる企業との連携が必要になってきます。

HITO 20

「**H**umanity」 「**I**nteraction」 「**T**rust」 「**O**penness」 を柱に

「いきるを支える」というパーパスを実現するために。

デジタルと人を融合させ、ヘルスケアの地域未来を創出するプロジェクトです。

HITO 20

未来に向けた4つのビジョン

マグネットタウン

マグネットケア
サービス

最適化された
パーソナライズケア

自ずと健康を支援する
生活環境

「マグネットタウン」

ヘルスケアを通じて、四国中央市に「ヒト」が集まってくる仕組みづくり。



未来像

四国中央市が、ヘルスケア領域の未来を切り開くイノベーションの中心地となる。

アプローチ例

さまざまなビジネスアイデア等を持つ企業を誘致。限界集落を含むフィールドやその生活・健康に係るデータ、医療・介護スタッフ等からの率直なフィードバックを得られるこの地で実証することで、上市の成功確率が高まる。

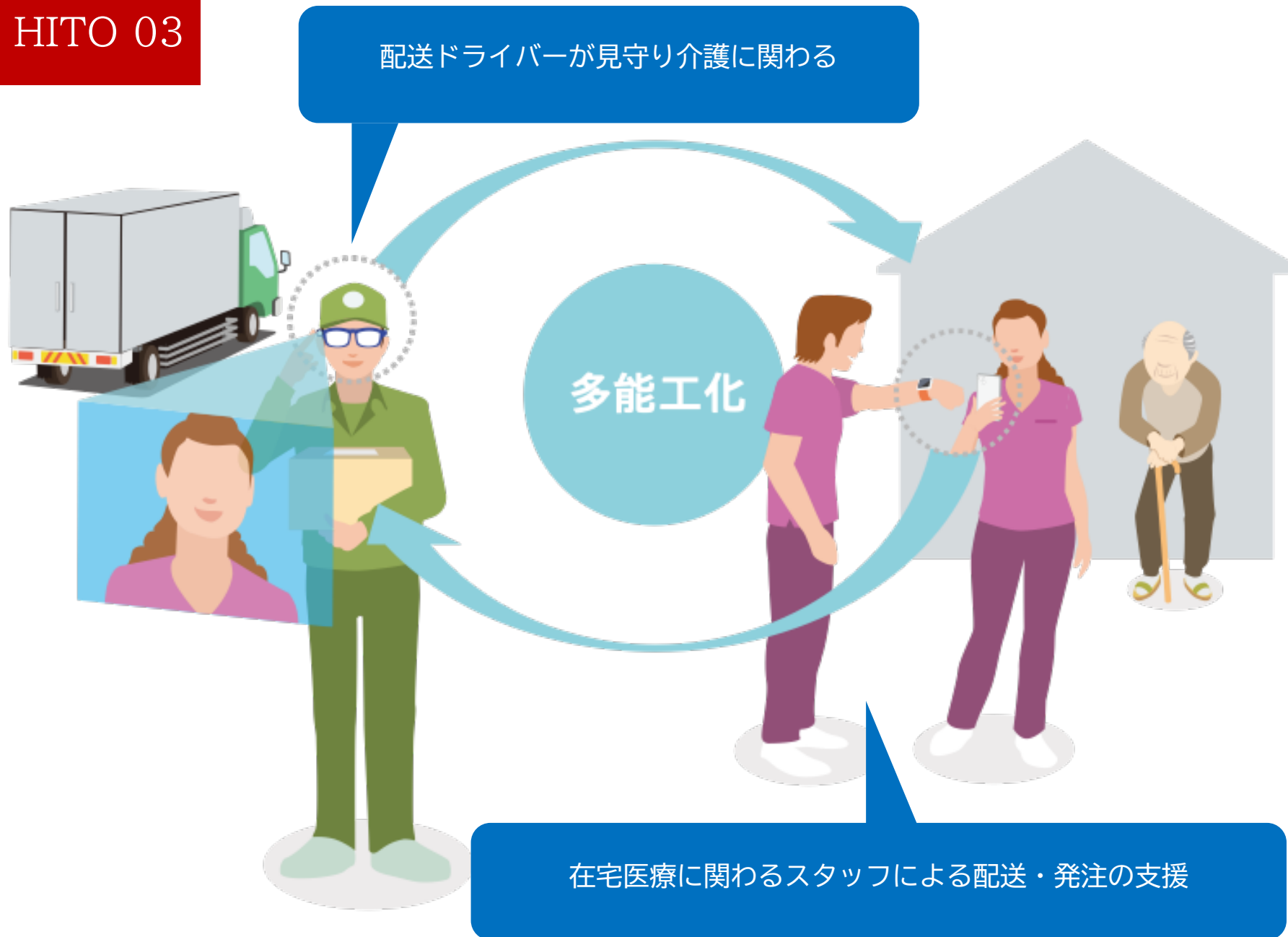


未来像

四国中央市が、ヘルスケア領域の未来を切り開くイノベーションの中心地となる。

アプローチ例

関係者（企業同士、医療介護スタッフと企業）が学びあい、新しいアイデアを生み出し、開発することができる。



未来像

働く人が、幅広い知識やスキルを持ち多能工化することで、持続可能な地域社会をつくる。

アプローチ例

物流・ロジスティクス従事者と医療・介護分野従事者がそれぞれのスキルをシェアし、事業の持続性、効率性を高める。

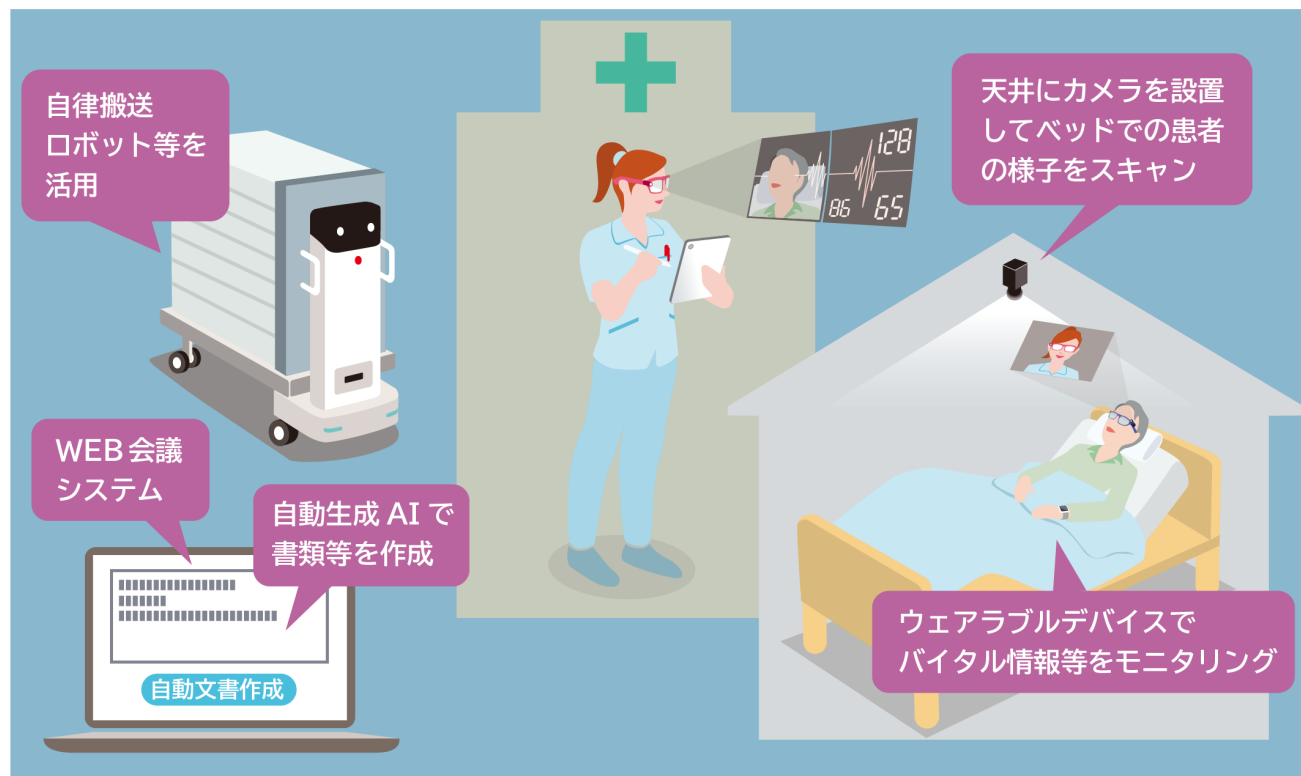
在宅医療にかかわるスタッフが配送・発注の支援を行う。

配送ドライバーがスマートグラスを使用して、見守り・介護にかかわる。

「マグネットケアサービス」

医療・健康サービスに従事する「ヒト」が、地域のために誇りをもって働き続けられる仕組みづくり。

HITO 04



効率化して創出された時間を
患者さんと向き合う時間に



未来像

働いている時間は、すべてヒト
（患者・ご家族や仲間・住民）と
向き合うために。そのためのベスト
コンディションをつくりだす。

アプローチ例

人が人と向き合い、人にしかで
きない業務に集中できる環境を
整える。

自律搬送ロボット等により、職
員が物品搬送に費やす時間を限
りなくゼロにする。

RPA等により、すべてのセク
ションで事務・定型作業等の多
くを自動化する。

病院だけでなく、介護施設や自
宅でも、本当に必要な緊急対応
を知らせる「ナースコールシス
テム」を開発。見守りデバイス
で遠隔ケアを可能にする。



多職種のスタッフが
ネットワークでつながり
サポートする

未来像

働いている時間は、すべてヒト
（患者・ご家族や仲間・住民）と
向き合うために。そのためのベスト
コンディションをつくりだす。

アプローチ例

多職種協働セルケアシステム®
など、病院での先進的な取り組
みを、在宅・介護等の現場にも
展開する。



アプリで心身の状態を視覚化

まわりとつながりながら
充足感や手応えを
本人自身も認識できるようにする

未来像

働いている時間は、すべてヒト
（患者・ご家族や仲間・住民）と
向き合うために。そのためのベスト
コンディションをつくりだす。

アプローチ例

職員のモチベーションや健康な
ど心身の状態を把握し、必要な
対応を早い段階で行うことがで
きる。

場所に縛られない医療支援



未来像

どこにいても、どんな環境でも地域の健康医療のために働けるインフラを整える。

アプローチ例

ロボット・通信技術等による遠隔手術や、VR等を用いた遠隔リハビリテーション等により専門医・専門スタッフがどこにいても、地域の患者や住民に一流の治療・ケアを提供できる。



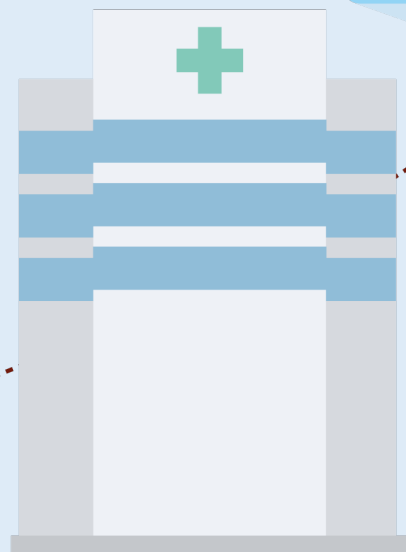
未来像

どこにいても、どんな環境でも地域の健康医療のために働けるインフラを整える。

アプローチ例

検査/治療のポータブル機器等により、在宅等においても場所を問わない医療を実現する。

地域のコミュニティで活動しながらリモートワーク



自宅で親の介護をしながらリモートワーク

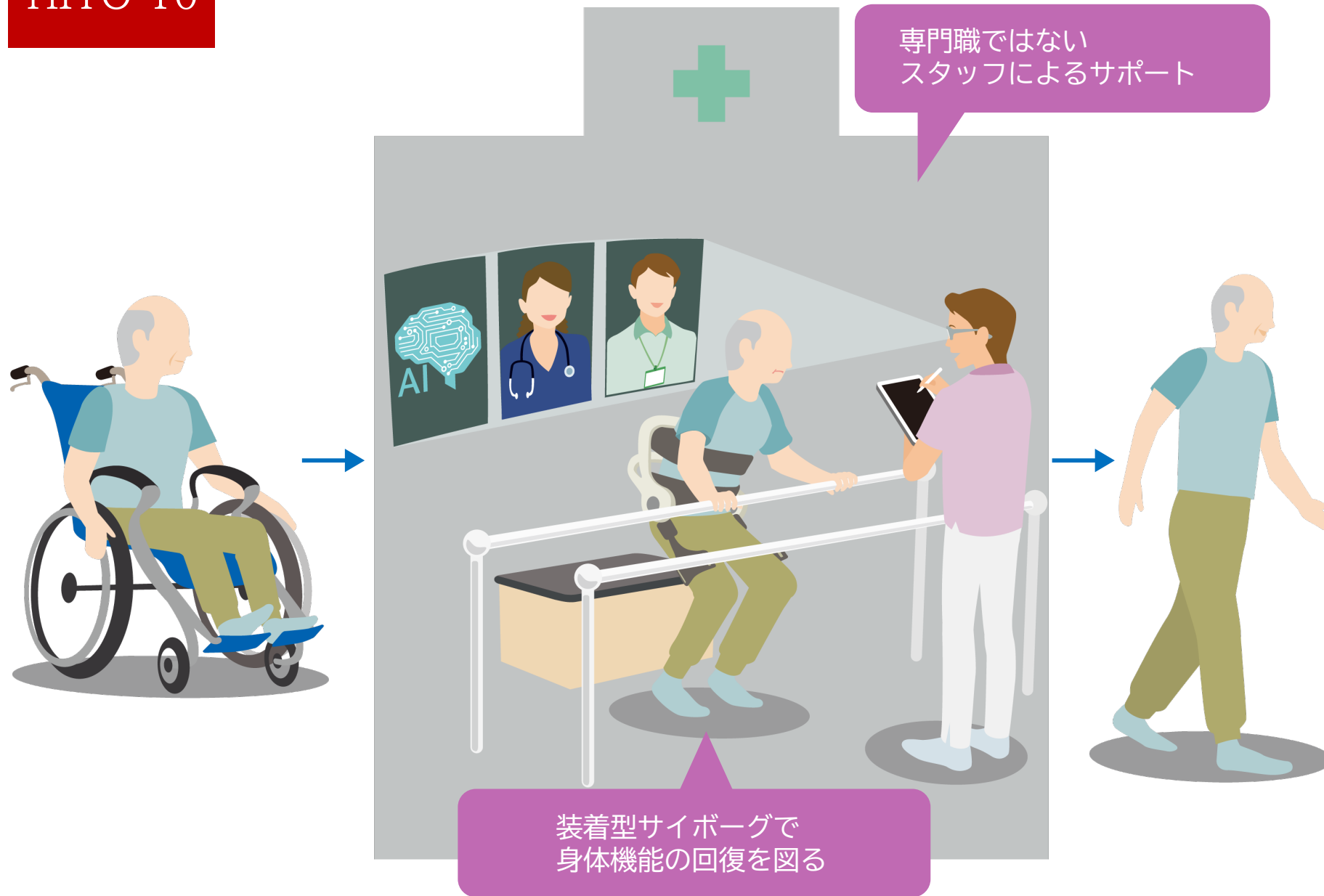


未来像

どこにいても、どんな環境でも地域の健康医療のために働けるインフラを整える。

アプローチ例

事務職員は、人とのネットワークを大事にしつつ、一定頻度の在宅ワークを行うことで、各人の生活環境に合った仕事が可能になる。



未来像

デジタルを利用し、スタッフの誰もが専門領域の仕事にも従事できるように「職人の民主化」を図る。

アプローチ例

例えばスマートグラス・装着型サイボーグ等を用いることにより、専門職（例：PT）でなくても必要なサポートが可能になる。



未来像

デジタルを利用し、スタッフの誰もが専門領域の仕事にも従事できるように「職人の民主化」を図る。

アプローチ例

XRやオンラインを用いたコーチング・プログラムにより、どこにいてもベストプラクティスを共有。職種の壁を越えた相互学習が受けられる。

この取り組みは有用性の検証、エビデンスの蓄積によって一般化されていく。

「最適化されたパーソナライズケア」

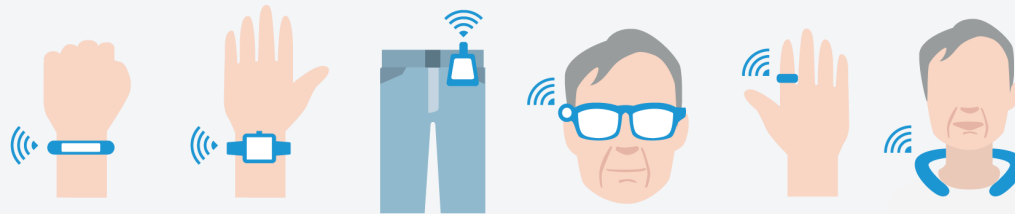
個人の状況に合わせて「治す」はもとより「ヒトを支えるケア」を提供する仕組みづくり。

最適な
治療方は？

誰に相談
すればいいの
かな？

退院後の
生活が不安

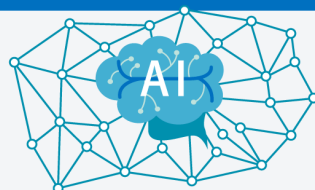
ウェアラブルデバイス



ヘルスケアデータ



AI 解析



かかりつけ健康コンシェルジュ

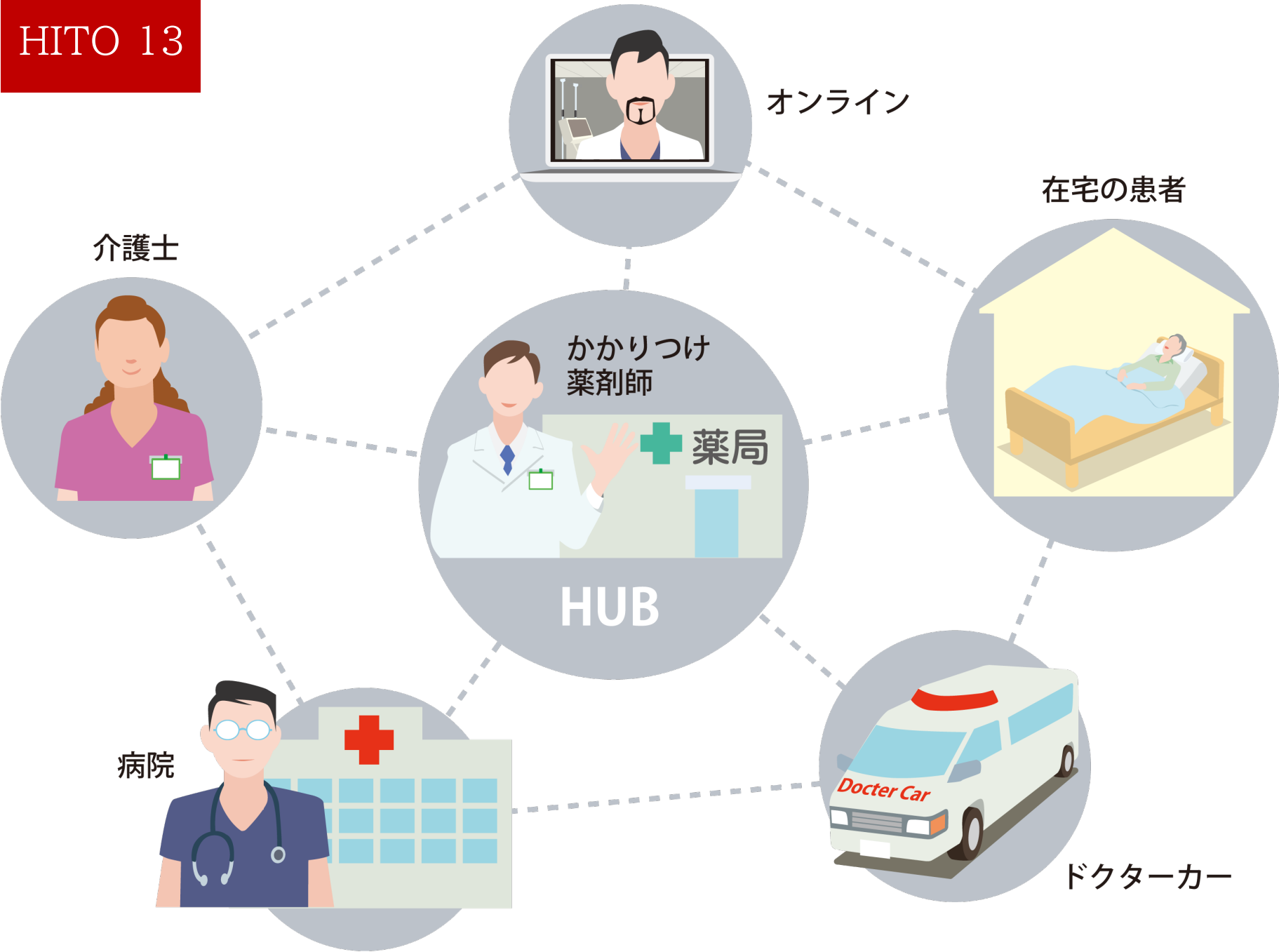


未来像

一人一人にあった生活スタイルの
支援を構築する。

アプローチ例

ケアアドバイザーが次世代「か
かりつけ健康コンシェルジュ」
となり、個人の遺伝子情報・生
活環境・性格等のデータに応じ
て、どのような生活を送るべき
か検討できる。



未来像

健診・急性期から在宅維持期まで、本当の意味で「生きる・ケア」の体制を整える。

アプローチ例

一連の場やデータがつながっていることから「ヒト」の状況や経緯を理解・活用できる。

ケアミックス型病院を中心とした医療グループを構築する。

薬局・薬剤師をハブにした医療機関を超えた環境でのサポートを行う。

安心して生活できるように、治療や在宅での健康全般に関わる幅広い課題について相談・対応してくれる退院後マネジメントを実現する。



未来像

最先端のさまざまなケアを選択できる。

アプローチ例

新しいテクノロジーを用いた手術シミュレーション・リハビリテーションなどを、エビデンスに基づいて積極的に受けることができる。

自費リハ・美容外科など
メリット・デメリットを理解し
納得して選択

保険診療



保険外診療



未来像

最先端のさまざまなケアを選択できる。

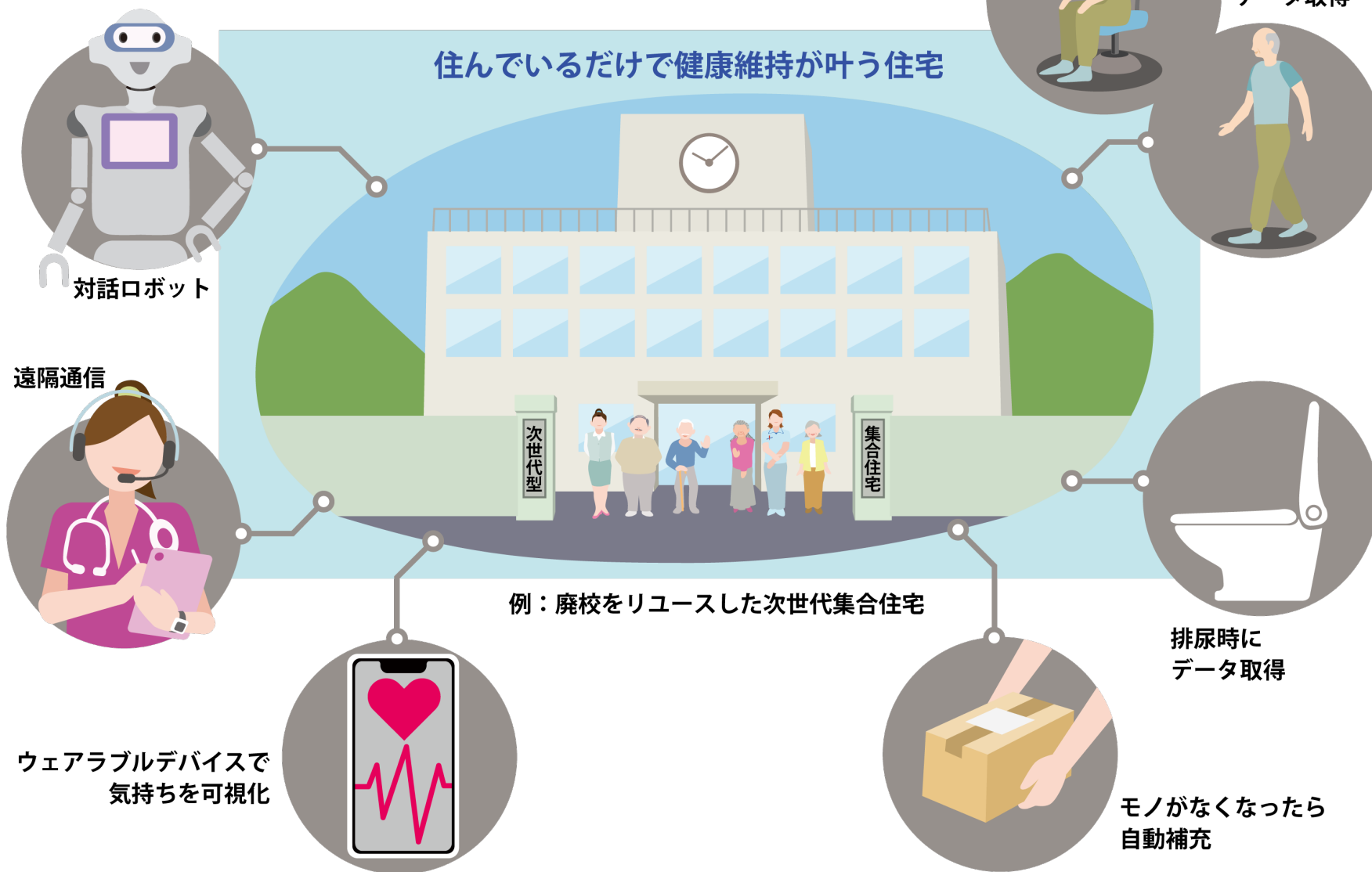
アプローチ例

自費リハ・美容外科のように 保
険診療外のサービスを含む、幅
広い選択肢から自分に合うもの
を選ぶことができる。

「自ずと健康を支援する生活環境」

その地域で住んでいるだけで、健康を維持できる環境づくり。

住んでいるだけで健康維持が叶う住宅



未来像

「本人が良い状態を維持でき、困った時には応援し、助けてくれる家」を構築する。

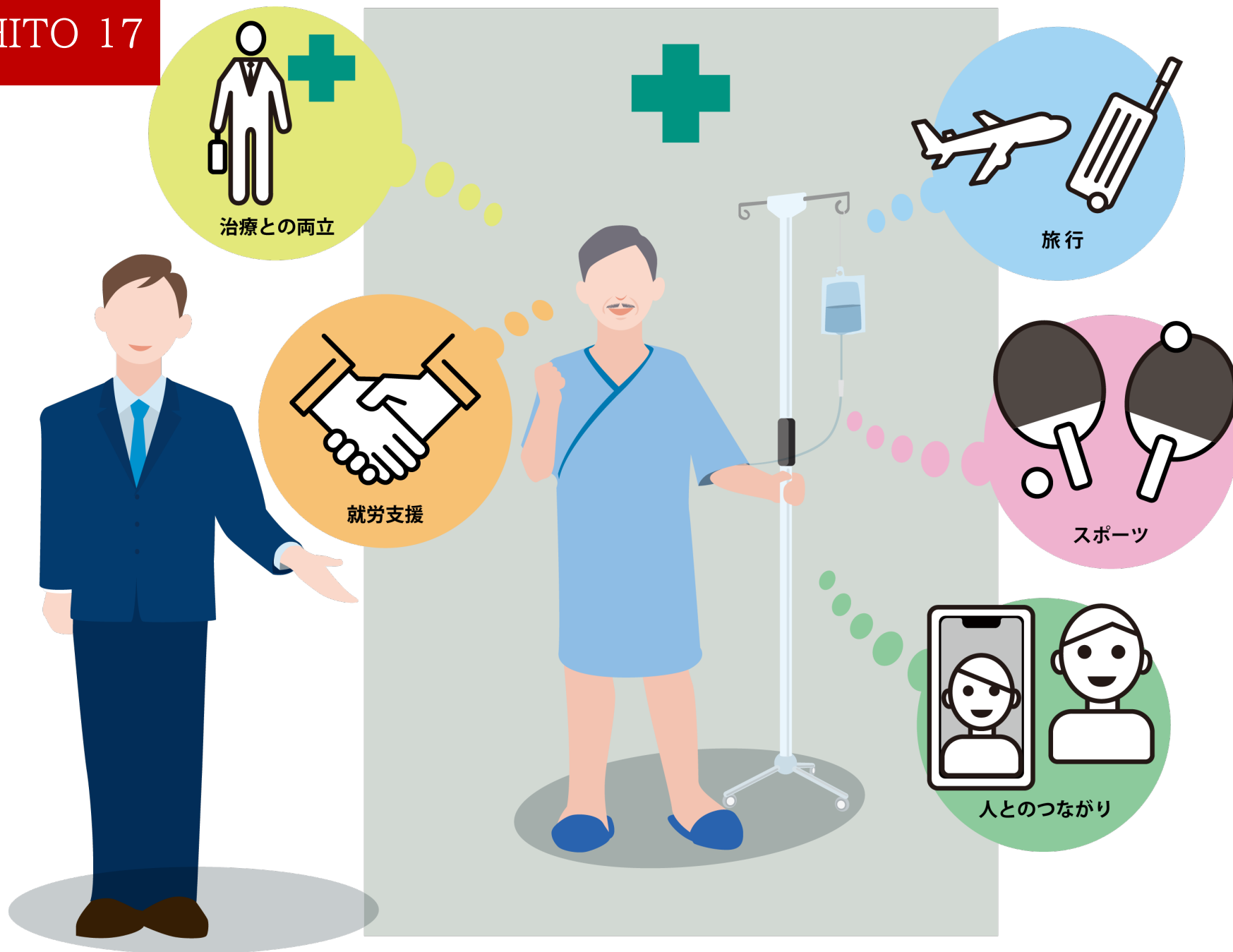
アプローチ例

次世代の集合住宅としての地域ケアの場をつくりあげる。

動画での歩行機能自動判定等スマートグラスやご自身・家族でも可能な機能評価等により、異常等のチェックや生活改善状況をサポート。その上で生活指導や受診を提案してくれる。

次世代対話型ロボットや家族との遠隔連携などを通じて「家族から離れている」という感を軽減する。

移動や購入等について、サポートが得られる。



未来像

社会的な接点を持ち、その接点をますます広げていくことで、健康に生きる場・機会が得られるようになる。

アプローチ例

米国AARPで見られるように、社会的な接点を促すプログラム等を紹介してくれる場がある。

糖尿病の人における旅行やご高齢の方の就労等のサポート等を行う。

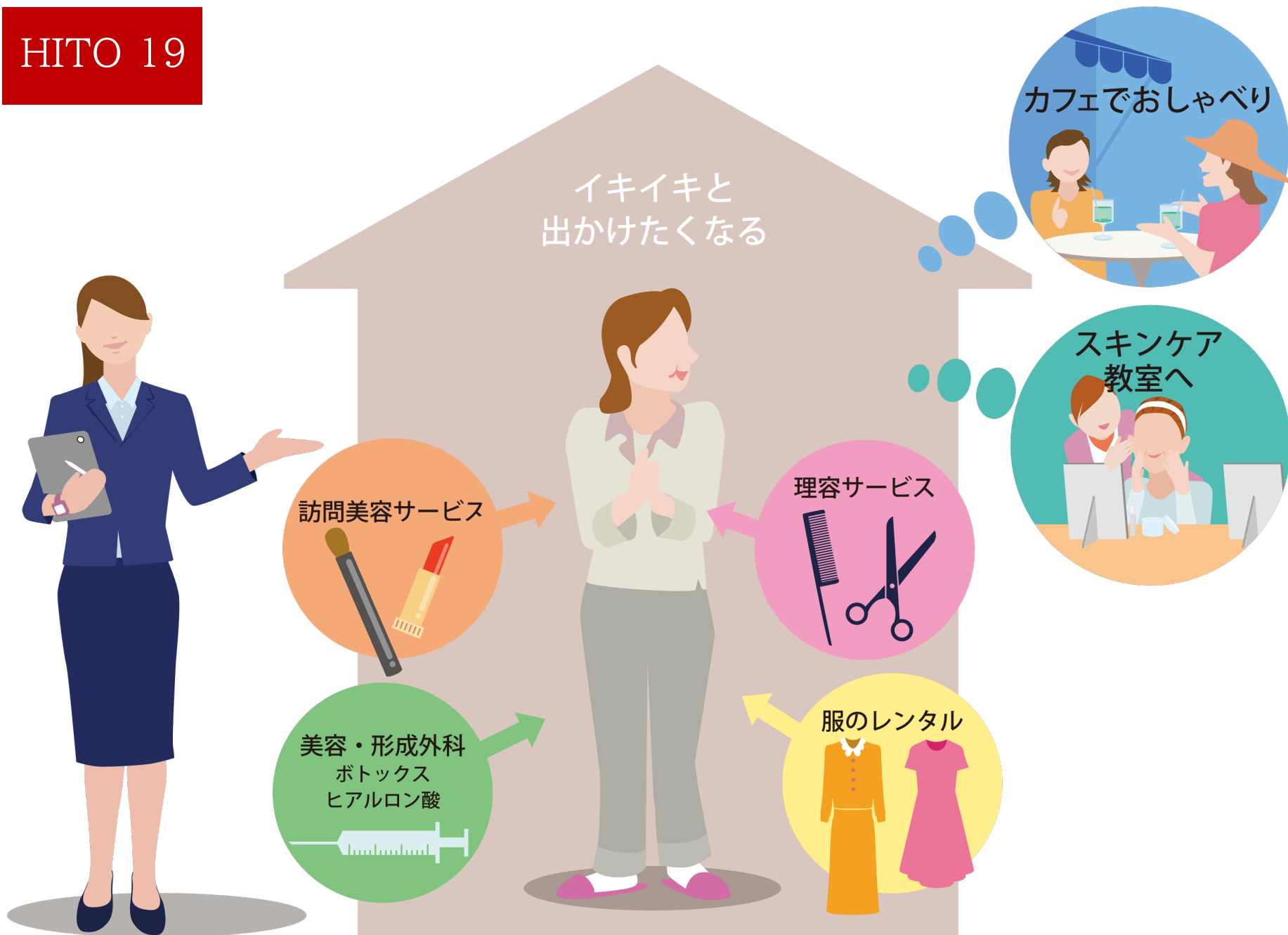


未来像

社会的な接点を持ち、その接点をますます広げていくことで、健康に生きる場・機会が得られるようになる。

アプローチ例

世代を超えて、病院・介護施設・自宅以外の「場」としてのコミュニティがあり、各世代から刺激を受け、社会活動に積極的に参画していける。



未来像

社会的な接点を持ち、その接点をますます広げていくことで、健康に生きる場・機会が得られるようになる。

アプローチ例

社会参画と共に、人々がいきいきと外出したくなるための美容・形成外科（アピアランスケア）等、さまざまな選択肢を設ける。

それぞれの専門分野を超えた

西洋医学+東洋医学+リハビリ

の新たな融合

歩く



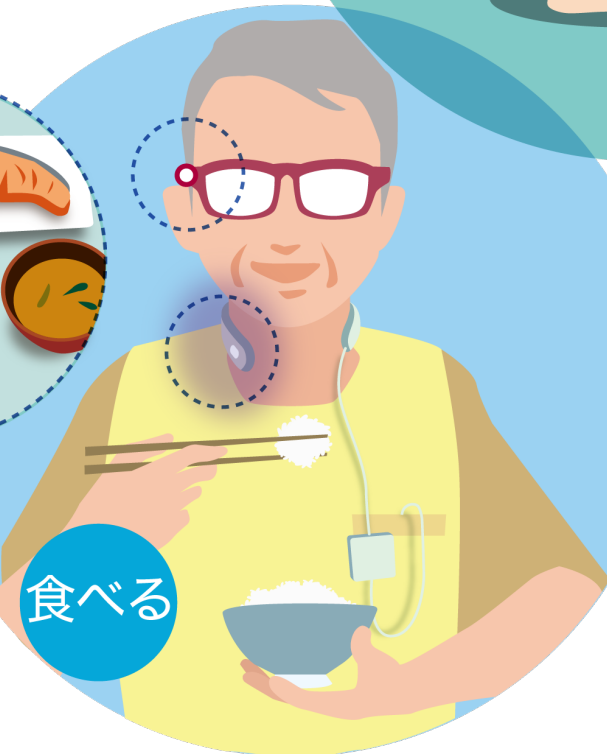
歩き方を解析し
フレイルのリスクを軽減

スマートグラスで
誤嚥を視認

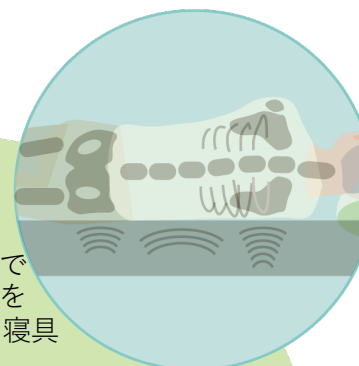


塩分量・カロリー
等の摂取量を
自動で計算

食べる



寝るだけで
骨の位置を
補正する寝具



寝る



未来像

生きるの根底となる「歩く、食べる、寝る」を、科学的に裏付けされた形でサポートする。

アプローチ例

「歩く、食べる、寝る」について、日本で一番実用的な教育プログラムを展開する。

歩き方を解析して、フレイル等に関するリスクや美容（歩き方）に関する状況把握ができる場を設ける。

課題が発生しても、東洋医学+西洋医学+リハビリを通じて、できる限り歩けるようになるプログラムを展開する。